

Q3. 乳児の母親に絵本の読み聞かせをすすめた時「スマホで絵本を見せている」といわれて言葉を失いました。知識のない私はそれ以上何も言えませんでした。どのように伝えればよかったのか気になっています。

A. 例えばこんな風にお話ししてみましょう。

スマホの絵本は、お母さん（あるいは大人）に読んでもらっていないことが大きな違いを作ります。一見楽しそうですが、赤ちゃんに笑顔はありません。赤ちゃんの脳は興奮し、ストレスを受けていますが、見ているだけです。人間の子どもとして成長する（感動）体験にはなりえず、よい記憶としても残りません。お母さん（大人）のあたたかい声が添えられる絵本の読み聞かせは、「お母さん大好き」という心を育み、同時に「言葉」の獲得につながり、母子の笑顔をつくりだします。これらが人間の大人になる土台を形成します。お母さんが笑顔で、赤ちゃんの目を見て、温かい話しかけ（「おはよう」とか）をすることがお母さん大好き「赤ちゃん大好き」という母子の心の絆

Q4. 2歳の子どもがいます。保育園などには行っておらず、一日中面倒を見ている中で、自分の怒りが抑えられず、無表情で接してしまったりします。度々「ごめんなさい」と私の顔色を見て謝ってくるのが心配です。

A. 子どもはいつでも「お母さんが大好き」です。お母さんが怒るのは「自分がダメな子だから」と思っています。だから謝ります。お母さんにも子どもにも大切なのは、人間も含めた自然環境です。子どもが集まるところに出かけ、心ある「ママ友」に出会い、子どもの遊び友達ができれば一歩前進です。次のことを（一人で）試してみてください。挑戦してみてください。

- 目を見て笑顔で「大好き」とゆっくりと静かに小さな声をかけてみてください
- 「おはよう」「いい天気だね」「おやすみ」と声をかけ、一緒に遊んでください

小さなメッセージですが、きっと子どもの心に届き、お母さんにも子どもにも

Q5. 先生のスライドには男の子の顔写真がよくあり、事例に男の子が多いのかな？と感じました。女の子は表に出にくいのか、もし性別で差があったら教えてください。また対応も違うのでしょうか。

A. 男女差は生まれながらにしてあるものです。例えば3歳児に自由に絵を描いてもらおうと、世界中の男の子は「自動車や飛行機」、女の子は「チューリップやお姫様」を描くことが知られています。スライドではたまたま男の子ですが、女の子も同じような問題を抱えます。しかし「依存」になりやすい傾向には男女差があり男子はゲーム、女子は会話系のライン等でした。スマホ時代になり、ゲームも動画もチャットも“何もかも”で大混乱です。

田澤 雄作（たざわ ゆうさく）

1948年生まれ。東北大学医学部卒業。秋田及び鳥取大助教授、国立病院機構仙台医療センター部長を歴任。現在は同センター小児科非常勤医。NPO「ワンダーポケット」理事長、日本小児科医会「子どもメディア」対策委員会・副委員長（2003-2012）。

【著書】

『テレビ画面の幻想と弊害ーむかつく・キレル・不登校の彼方にあるもの』悠飛社 2003年
『いま、子どもたちがあぶない！』（共著）古今社 2006年
『メディアにむしばまれる子どもたちー小児科医からのメッセージ』教文館 2015年



甲西図書館・石部図書館に
所蔵しています！！